

令和 7 年度 第 3 回 赤磐市地域公共交通会議議事録

日時：令和 7 年 10 月 21 日（火）15：00～16：20

会場：赤磐市役所 3 階協議会室

1. 開会

事務局：令和 7 年度第 3 回赤磐市地域公共交通会議を始めさせていただきます。
資料につきましては、事前に送付させていただきました。机上の 3 種類の資料は、4. その他の場面で報告させていただきます。委員数 20 名に對しまして、ご出席頂いている委員の方は 14 名でございます。過半数を超えておりますので、赤磐市地域公共交通会議設置要綱第 5 条第 3 項の規定により会議は成立いたします。なお、商工会中原会長の代理で栗正様、JR の栃折課長の代理で富岡様に出席いただいております。
それでは開会にあたり、会長にご挨拶をお願いいたします。

会長挨拶

事務局：ありがとうございました。協議に入ります前に、新しく委員になられた方がおられますのでご紹介いたします。市自治連合会赤坂地域代表の有馬雄二郎様、公益社団法人岡山県バス協会の伊藤雄造様でございます。よろしくお願いいたします。

前回会議内容の確認

会長：まず、本日の地域公共交通会議の議事録の署名人を指名したいと思います。嘉数委員と中務委員、よろしくお願いいたします。

2. 報告事項

（１）「岡山桃太郎空港シャトルバス便」赤磐営業所の運行計画について

◇資料説明

事務局：「岡山桃太郎空港シャトルバス便」を運行する株式会社エスアールティーから運行計画変更の報告がありました。岡山桃太郎空港シャトル便は令和 5 年 9 月から本格運行を開始し、赤磐市および旧瀬戸町と岡山桃太郎空港をつなぐ直通便です。現在は株式会社エスアールティーの岡山空港営業所を運送の主体として運行しておりますが、運行効率を高めるため、令和 7 年 11 月 1 日から赤磐営業所を追加することです。なお、赤磐営業所の所在地につきましては、赤磐市下市にあります山陽タクシーの場所になります。今回の変更は営業所の追加のみで、その他に変更はありません。

◇質疑応答・意見

（特になし）

（２）市民バス定期券の車内更新手続き開始について

◇資料説明

事務局：従来、市民バス定期券の更新手続きは、市役所本庁または支所窓口のみで受け付けておりましたが、この手続きをバスの車内でも可能としたものです。開始日は令和 7 年 9 月 1 日から、対象路線は市民バスのうち、定時定路線型のみ、具体的には山陽・赤坂地域及び熊山地域を運行する 8 路線が対象になります。目的としては、利用者の利便性を向上させること、そして更新手続きの手間を減らすことで市民バスの継続利用を促すことを目的としています。手続きの流れですが、車内での更新では申請と交付の場所がバス車内となりますが、事務処理期間として 5 営業日を要します。なお、今回の変更は更新時のみの場合で、新規の定期券発行はこれまで通り、市役所本庁または支所窓口のみでの対応となります。

次に 2 ページをお願いします。こちらのチラシを市民バス車内に掲示して、定期券更新が車内で手続きできるようになったこと、その手続き方法について利用者にお知らせしています。なお、利用実績については今日現在で 1 名の方に車内で更新手続きをしていただいております。

◇質疑応答・意見

会長：手続きされた 1 名の方から意見があったか。

事務局：特になかった。

会長：手続きは 5 営業日かかるものなのか。

事務局：今後の経過をみて、もう少し短くできるようであればしていきたい。

会長：車内で定期券更新できることは良いことであるが、5 営業日に関しては、今後改善される可能性があるということである。

3. 協議事項

（１）広域路線バス（赤磐・和気線）の見直しについて

◇資料説明

事務局：広域路線バス（赤磐・和気線）につきましては、備前片鉄バスの廃線をうけて和気町との協定により、平成 27 年 10 月 1 日から運行を開始している周匝上と和気駅間を結ぶバス路線です。今回の見直しは、現在の利用状況を踏まえ、バス運行の効率化と利用者の利便性向上を図ることを目的としており、下記の 2 点について変更を予定しています。

1 点目は、和気駅前行 3 便を 1 便へ統合、及び周匝上行 2 便を 1 便へ統合・延伸について。これは利用が極端に少ない便を減らしつつ、利便性向上を図るため、和気駅前行第 4 便、第 5 便及び第 6 便を統合して第 4 便に、周匝上行第 2 便及び第 3 便を統合するとともに、塩田出張所発から和気駅発に延伸し、第 2 便とするものです。

2 点目は、和気町営バス（和気・片上線）との接続時間の見直しです。これは和気町営バス（和気・片上線）からの乗継ぎには和気駅南口から北口まで地下通路で移動する必要があり、乗継ぎの時間的余裕を確保するため周匝上行第 5 便の出発時間を 5 分遅らせるものです。施行日につきましては令和 8 年 4 月 1 日を予定しております。

まず、1 点目の統合・延伸について詳しく説明させていただきます。資料の 2、3 ページの時刻表をご覧ください。それぞれ赤枠で囲っているうちの左側 2 つが変更箇所になります。また、2 ページが変更前の時刻表、3 ページが変更案になります。現状、周匝上と塩田出張所の間を往復している便の利用が非常に少ないという課題がありました。2 ページの時刻表の 1 番下、年間乗降者数の欄をご覧ください。和気駅前第 4 便と第 5 便、周匝上行第 2 便と第 3 便について、いずれも令和 6 年度の利用者数は 100 人以下となっており、特に和気駅前第 4 便につきましては 19 人、周匝上行第 3 便は 5 人と、ほとんど利用がみられない状況になっています。なお、この利用実績から、利用が少ないながらも主に塩田地域の方は、周匝上行第 3 便で吉井地域に移動し、和気駅前第 4 便で帰られていると推察されます。この状況を踏まえて、利用の少ない便を統合しつつ、塩田地域から周匝地域への午前中の移動を確保し、利便性向上を図る見直し案を検討いたしました。

4 ページをご覧ください。こちらは赤磐・和気線の車両がどのような動きをしているかを示した模式図になります。左側の変更前の図の赤枠で囲まれた部分をご覧ください。これを右側の変更案の図の赤枠のように見直しを行います。具体的な説明をします。下向き矢印の和気駅前第 4 便、第 5 便、第 6 便を統合して、変更案の第 4 便とします。この変更案の第 4 便の発着時間は、変更前の第 6 便と同様の予定です。また、左側の上向きの矢印周匝上行第 2 便、第 3 便を統合し、更に起点を塩田出張所発から和気駅前発に延伸して第 2 便とします。こちらの変更案の第 2 便は和気駅前を 10 時 30 分発、周匝上には 11 時 3 分着とする予定です。このように利用が非常に少ない塩田地区との往復便を統合、延伸し、周匝上と和気駅間を往復する便にすることで、路線の効率化を図りたいと考えています。

次に資料 3 ページ中央の黒枠部分をご覧ください。今回見直しをするにあたって、塩田から周匝上間の移動をされる方の、周匝地域での滞在時間に大きな影響が出ないように配慮しました。変更前につきましては、周匝上行第 2 便と和気駅前第 5 便を利用した場合、周匝地域での滞在時間は 70 分でした。変更案では、周匝上行第 2 便と和気駅前第 4 便を利用した場合の滞在時間は 76 分となり、概ね同程度の滞在時間を確保できるという時刻表としています。

次に 2 点目の和気町営バス（和気・片上線）との接続時間の見直しについてご説明いたします。資料 2、3 ページの 1 番右の赤枠部分をご覧ください。周匝上行の第 5 便には備前緑陽高校の学生が多く、和気町営バス（和気・片上線）から和気駅で乗り継いで利用されていると聞いております。2 ページの右上の地図をご覧ください。乗り継ぎには和気町営バスの停留所である和気駅南口から駅北口に設置されている広域路線バスの停留所、和気駅前停留所まで地下通路を通して移動する必要があります。現在この乗り継ぎ時間が 5 分と短い為、特に和気町営バスが遅延した場合など学生が地下通路を急いで移動して乗り継いでいる状況がありました。その為、乗り継ぎに時間的余裕を確保するために、周匝上行第 5 便の出発時刻を 5 分遅らせる見直しを行います。3 ページの時刻表の右側の赤枠をご覧ください。変更案の周匝上行第 5 便は和気駅前を 16 時 55 分発として、変更前の 16 時 50 分発から 5 分繰り下げております。これにより乗り継ぎの時間が 10 分に変更となります。

◇質疑応答・意見

会 長：1 点目はあまり利用されていない時間帯を和気駅までつなぐという試み、2 点目は接続時間を検討し直したいということである。地元の方や利用者の方からご指摘はあったか。

事 務 局：1 点目については、利用状況をみて判断し、利便性向上を図るもの、2 点目については、ヒアリングした結果、乗継に困っているという声を聞いたので今回見直しをした。

会 長：1 点目について、地元の方々の意見はあったか。

事 務 局：塩田地区の区長さんから、午前中に往復する便がなくなるのは困るという話があった、検討した結果、地元意見を反映させた、今回の形で提案させていただいた。

会 長：他に意見がなければ、今回の変更案について承認いただける方は挙手にて意志表示をお願いします。

(一同承認)

会 長：では、承認ということで事務局は手続きを進めてください。

(2) 広域路線バス（赤磐・美作線）の見直しについて

◇資料説明

事 務 局：本年 4 月 1 日から周匝上瀬戸駅間を結ぶ広域路線バス（赤磐・瀬戸線）の運行を開始しておりますが、周匝上行きは瀬戸駅前 17 時 35 分発の 1 便のみとなっています。その為、部活動などで帰宅時間が遅くなる高校生などが利用しづらい状況にありました。そこで赤磐市広域路線バス（赤磐・美作線）の平日ダイヤの見直しをしまして、宇野バス（ネオポリス線）と接続を最適化することで、部活動している高校生などが瀬戸駅から周匝上方面へもう少し遅い時間帯でも移動できる手段を確保したいと思えます。具体的な見直し内容につきましては、湯郷温泉・仁堀・林野駅方面行の赤磐美作線の最終便を 14 分繰り下げるといいます。これにより、宇野バスから広域路線バス（赤磐・美作線）へ乗り継ぎが可能になります。施行日は令和 8 年 4 月 1 日からを予定しております。

資料の 2 ページをご覧ください。この見直しによりまして、どのような乗り継ぎが可能になるか具体的な経路とともに説明させていただきます。現在、赤磐美作線の最終便は新道穂崎に到着する宇野バスと接続して、19 時 10 分に出発しております。この便は下市バス停に 19 時 16 分に到着します。一方、瀬戸駅を 19 時 5 分に発車する宇野バスに乗車した場合、ネオポリス線下市バス停に到着するのは 19 時 13 分です。資料右側の小さい地図をご覧ください。宇野バス「ネオポリス線下市バス停」から、広域路線バス「下市バス停」まで黄色い点から赤い点までの移動になります。こちらを移動するのに、徒歩で約 3 分かかりますが、途中信号機のある交差点があります。その為、現在のダイヤでは、乗り継ぎ時間がわずか 3 分しかなく、宇野バスの遅延や信号待ちなどを考慮すると、乗り継ぎが非常に難しい状況でした。そこで赤磐美作線の最終便を 14 分繰り下げること、新道穂崎バス停を 19 時 24 分発、下市バス停到着時間を 19 時 30 分となるように変更します。これにより宇野バスからの乗り継ぎ時間を 17

分確保でき、移動時間を考慮しても十分に乗り継ぎが可能となります。

資料 1 ページの参考に運賃の比較があります。学生が適切な通学方法を選択できるように運賃を比較しています。バスを利用する都度、運賃を支払う場合ですが、広域路線バス（赤磐・瀬戸路線）を利用した場合、周匝上から瀬戸駅の間で 600 円、見直しにより宇野バスと広域路線バス（赤磐・美作線）を乗り継いだ場合は 500 円と 140 円、合計 640 円で、乗り継いだ方が 40 円高くなります。

次に 1 ヶ月の定期券の比較になります。広域路線バスの定期券は広域路線バスにしか乗車できません。一方、宇野バスの定期券は宇野バスと広域路線バス両方で利用可能です。瀬戸駅から周匝上まで乗り継ぎで月に 2 回以上利用される場合は、宇野バスの定期券を購入した方が広域路線バスの定期券を持って、都度宇野バスの運賃を支払うよりも、安価になります。この点についても、学校に通知する際に詳しくお伝えしたいと思います。

◇質疑応答・意見

委員：宇野バスのネオポリス線下市着に関して、乗り継ぎ時間は 17 分あるが、遅延を考慮しても余裕で乗り継げるのか。

事務局：8 月の遅延状況をみると、遅い日で 2 分程度の遅延だったので十分乗り継げる時間と考えている。

会長：他に意見なければ、この件について承認いただける方は挙手にて意志表示をお願いします。

（一同承認）

会長：では、承認ということで事務局は手続きを進めてください。

4. その他

（1）仁堀地区から熊山診療所への移動について

◇資料説明

事務局：前回の会議で吉井地域の代表委員から、仁堀東地区の区長からの要望として定期いただいた件です。要望の趣旨は、仁堀地区にお住まいの方が熊山診療所へ通院する際、広域路線バス（赤磐・美作線）と市民バス（松木・下市線）を乗り継げるダイヤになっていないため、見直しをしてほしいというものです。

資料 1 ページの中段をご覧ください。6 時 58 分仁堀発の広域路線バス第 1 便に乗車して仁堀地区から熊山診療所に移動する場合、下市に 7 時 24 分着、松木・下市線は赤磐市役所 9 時 50 分発と、2 時間 26 分の長時間の待ち時間が発生します。次に、9 時 23 分仁堀発の第 2 便の場合は下市着が 9 時 48 分で、松木・下市線 9 時 50 分発と、2 分で乗り継ぐ必要があります。しかしながら、下市バス停から赤磐市役所バス停へ移動するには、徒歩で概ね 6～8 分程度かかることを考慮すると間に合いません。この為、松木・下市線の市役所発車時刻を 10 分遅らせて、広域路線バス第 2 便と

接続できるようにしてほしいというご要望をいただいております。

次に、この要望が実現可能か検証した結果をご説明いたします。まず、松木・下市線は熊山診療所を経由したのち、JR 熊山駅へ向かい、電車へ接続する役割も担っています。資料 1 ページ右下の松木・下市線バスロケデータをご覧ください。このデータによると、JR 熊山駅への到着時間は時刻表と比較して最大 5 分の遅れが生じています。もし要望どおりに、松木・下市線のダイヤを 10 分遅らせて変更した場合、JR 熊山駅にバスが到着するのが 10 時 36 分、JR 姫路方面への電車が出発する時刻が 10 時 40 分、と 5 分遅れた場合にはこちらの電車へ乗り継ぎができなくなります。

次に、資料左下の表をご覧ください。10 分遅れた場合、電車の乗り継ぎが出来なくなり支障が出ることから、5 分遅れた場合など複数のパターンで検証してみました。しかしながら、表の通り出発時間が遅くなると JR との接続が出来ず、逆に出発時間を早めると広域路線バスと接続できない可能性が高いことが確認されました。また、松木・下市線の利用状況につきましては、月に平均 180 人程度の方が利用し、JR 熊山駅では 5 人程度の方が降車されています。一方、仁堀地区から熊山診療所への移動する方は 1 人と聞いておりまして、更に通院を目的で、多くても月に 2 回程度とごく限られた利用になっています。この為、要望どおりにダイヤ改正を行うと、より多くの利用者の利便性を低下させることになり、ただちにダイヤ改正を行うことは現実的ではないと判断いたしました。しかしながら、乗り継ぎの為に約 2 時間 20 分程度の待ち時間が発生している状況は、非常にご不便をおかけしているということから、別の乗り継ぎ方法を代替案としてご提案させていただきます。

資料 1 ページの左下代替案と、資料 2 ページの右側の地図をご覧ください。代替案につきましては、広域路線バスと宇野バス、デマンド型市民バスを乗り継ぐ方法です。広域路線バス（赤磐・美作線）9 時 23 分に仁堀を出発し、9 時 48 分に下市に到着します。その後、下市のバス停で 12 分乗り継ぎ待ちをし、10 時発の宇野バスに乗り継ぎ、桜が丘中央で降車します。そこから徒歩で桜が丘いきいき交流センターに移動し、デマンド型市民バスを利用して熊山診療所まで移動します。実際の移動経路につきましては資料 2 ページ右側の代替案をご確認ください。この代替案で移動した場合、要望案で移動した場合の所要時間と大差なく移動することができます。

資料 2 ページの左下運賃比較の表をご覧ください。65 歳以上の方がデマンドバスを電話予約した場合で比較すると、代替案は 170 円高くなります。ただし、デマンドバスを Web 予約で利用すれば、差額は 120 円となります。

今回の要望に対して、直ちにダイヤ改正という形でお応えすることはできませんが、各路線の接続に課題がある現状を事務局として重く受け止めており、今後、利便性向上のため、接続改善の検討を継続してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

◇質疑応答・意見

委員：帰りのバスはどうされているのか。

事務局：現状の帰りの便は資料の 3 ページにあるように、市民バス 13 時 13 分熊山診療所発の松木・下市線に乗り、3 時 50 分に市役所到着後、1 時間 21 分待てば、仁堀へ行く広域路線バス（赤磐・美作線）がある。もしくは、さらに遅い時間帯の 16 時 13 分熊山診療所発の松木・下市線に乗ると、

市役所到着後 19 分待てば宇野バスに乗り継いで帰ることが出来るが、診療所に到着後、非常に長い時間が空くことになるので、おそらくタクシーで帰っているのではないか。

委員：熊山から仁堀へ帰る方法として、宇野バスのバス停まで熊山のデマンドバスと赤坂のデマンドバスを乗り継いでいき、宇野バス又は広域路線バス（赤磐・美作線）に乗って帰る方法もあるのではないか。

事務局：その方法についても代替案として提示させていただく。

委員：率直なところ、仁堀からであれば佐伯診療所では駄目なのか。

事務局：今回利用されている方はリハビリ目的で通院されていると聞いている、リハビリだと熊山診療所に限らず、赤磐医師会病院やその他にも整形外科がある委員もあるが、熊山診療所の理学療法士の施術方法を気に入られており通っているのだと推察する。

会長：今回については特別なケースである。今回の仁堀から熊山のような我々が想定していない移動がどれだけあるのか。計画を作る時に考えていなかったレアなケースでおしまいなのか、実は意外とニーズがあるが、我々が考えていないから誰も使っていないだけなのか、を事務局に確認したい。

事務局：令和 4 年度に実施した自家用車での移動も含めた移動ニーズのアンケート調査では、吉井地域の回答者が 150 名程度おり、そのうち 2 名が熊山地域の目的地として熊山診療所を選択した。ニーズは少ないと認識している

会長：公共交通なので、1 人 1 人のすべての細かいニーズに応えることは難しい。ある程度まとまった需要がないといけないので、今回の仁堀から熊山というのは難しかったのかなと思う。かなり時間をかけて検討してもらったと思う。地域の代表の方からの意見をもとに検討を行い、乗り継ぎが大変だという問題が見えてきたのだと思う。今回は対応不能だったが、他の案件では対応可能なものもあるかもしれないので、ぜひ、地元の意見を挙げていただければと思う。

・令和 7 年 11 月 30 日任期満了に伴う委員選出依頼

事務局：事前のご案内として、令和 7 年 11 月 30 日をもちまして委員の任期が終わります。名簿に書いてありますが、現在の任期が令和 5 年 12 月 1 日から令和 7 年 11 月 30 日まで 2 年間お願いしております。事務局といたしましては引き続き皆様に委員をお願いしたいと考えています。名簿に所属と備考欄がございます。備考に「一般旅客自動車運送事業者の代表」、「一般旅客自動車運送事業者の運転手が組織する団体の代表」、「国土交通省中国運輸局岡山運輸支局長又はその指名する者」、「道路管理者、岡山県警察、学識経験者その他の交通会議が必要であると認める者」と記載がある方につきましては、改めまして所属機関へ次期委員の選出を依頼させて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

・西日本旅客鉄道株式会社岡山支社から報告事項

委員：JR 西日本の富岡でございます。2026 年度駅設備適正化計画において JR 熊山駅駅舎の改修工事をしていくことになっています。背景としては、当社は国鉄から多くの資産（建物や駅設備等）を継承しており、経年 70 年を超えるものも多くなっています。資産の維持管理にはコストがかかる上に、人手も必要となり労働力の確保が非常に厳しくなっています。また、そういった中、利用者が大きく減少している駅も多くなっており、全

ての資産をそのまま維持、または老朽取換えしていくことが難しくなっています。このような背景を踏まえて具体的な手段としては、駅舎やホームの屋根を撤去縮小して維持管理をしていきたいと考えています。一方で、全ての資産が不要となるわけではないため、必要な設備については大規模な改修工事を実施して、メンテナンスコストができるだけかからないようにしていこうと思っています。

資料の左下の熊山駅をご覧ください。JR 熊山駅では、旅客上家 1 号、2 号、3 号と駅本屋については撤去を考えています。加えて、駅待合室は新設し、旅客跨線橋は耐震工事をします。ホーム上の屋根がなくなるのと待合が小さくなるというところでご利用者からは不便になると感じられるということは弊社も認識しておりますが、西日本全体で計画的に設備等を減らしていかないといけなく、今回実施することになりました。ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

委員：残すものは跨線橋だけなのか。

委員：残すものは跨線橋だけで待合室は新設する。

委員：事務局で熊山地域の住民の声について聞いていることがあれば教えてください。

事務局：9 月 25 日に熊山地域の区長会で説明した。高校生の利用が多く、暑い日、雨の日などに退避する場所が少なくなるのは非常に残念とのことだった。市で駅前整備した地域振興施設でお待ちいただくことはできるが、跨線橋を渡った先のホームの旅客上屋は残して欲しい、建てかえて欲しいという意見は聞いている。その他、エレベーターを設置すれば利便性が上がり利用者も増えるのではないかというご意見もありました。市としては旅客上屋の存続を JR さんに要望していきたい。

委員：地域の方の声をお聞きして弊社としても何かできることはないかと考えているところではあるが、ホーム上は特に保守管理が難しいところであるので、他の方法、例えばベンチのみの設置や、跨線橋の下の活用などで待つスペースを確保できないか検討していきたいと思っています。

会長：駅設備適正化という言葉がどうなのかなと思う。適正とは何なのか。管理費が最小になれば適正ということなのか、利用者が満足したら適正なのか。会社の考え方がもろに出てくるなというような気がします。反対側ホームは跨線橋を渡って行くため、高齢の方は当然時間がかかる。新設備で待っていて電車が来る時には早めに案内があるのか気になる場所である。また、資料の方面記載についても神戸方面、門司方面となっているが、姫路方面、岡山方面にするなど、その地で利用する際にわかりやすい記載をしてほしい。

委員：社内資料をそのまま活用した形だったので、今後はもう少しわかりやすい形で共有できるよう気を付けていきたいと思っています。何をもって適正化というのは、すぐにお答えできない。申し訳ございません。反対側のホームへの移動は、列車が来る 3 分前や 5 分前に案内放送があるので、それを聞いて移動していただければ間に合うと思うので、地域の方にもご説明できればと思う。

委員：JR の肩を持つつもりはないが、保守点検をする人員が足りていないというのがあって、そういったことも反映されているのだと思う。車いすで乗車される方がいた場合、1 つ 2 つ先の駅から駅員が行って対応する。そういった部分もあるかなと。補足です。

事務局：よろしければ、今後のスケジュール感を教えていただければと思います。

委員：今後のスケジュールについて、駅の工事は具体的にはまだ決まっていないが、26年度中に工事に着手し、27年度までの2カ年で工事を計画しています。

・岡山県交通政策課から報告事項

委員：岡山県交通政策課から2点報告があります。1点目は、燃料価格高騰で厳しい状況におかれている交通事業者を対象に、国の交付金を活用して燃料価格高騰対策事業を実施することになっています。ぜひご活用ください。総額で170,000,000円程度あります。交通政策課のHPに申請方法等のせていますのでご覧ください。

2点目、10月1日から岡山県内で公共交通利用促進キャンペーンイベントを行っています。昨年度はJRだけを対象としていたが、今年度はバスやJR以外の鉄道も対象としています。

5. 閉会

副会長挨拶